

6 五島地域の重点農家に対する生産性向上対策

五島家畜保健衛生所

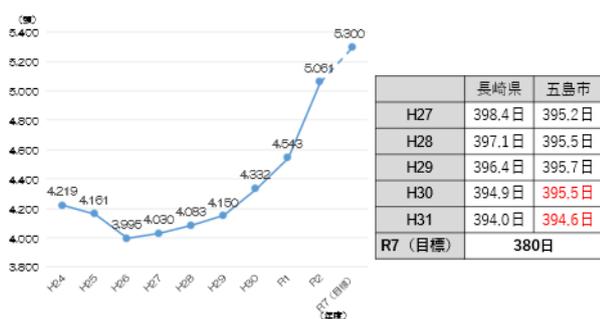
七島 琳・吉野 文彦・元村 泰彦

五島地域では繁殖成績等に課題を抱える肉用牛農家を重点農家と位置付け、生産性向上対策に関係機関一丸となって取り組んでおり、その成果について報告する。

1 重点農家について

五島地域では、飼養頭数の減少を食い止めるため、平成 27 年度から肉用繁殖牛 5,000 頭飼養を目標として、関係機関一丸となり管内農家への支援を行い、令和 2 年度に目標を達成した。

五島市の分娩間隔は平成 30 年から長崎県の平均値からやや延長しており、県の目標値 380 日を達成するため、様々な取り組みを実施している（図 - 1）。規模拡大が進む中で五島地域の生産性を維持するためには、成績不振の農家へのサポートを行い、地域全体の成績を底上げする必要があると考える。



図一1 五島地域の肉用牛繁殖牛飼養頭数と分娩間隔の推移

そこでごとう農業協同組合（以下 JA）、長崎県農業共済組合、五島市、五島振興局農業振興普及課（以下普及課）、家保が構成員となる五島市農業振興対策協議会技術者会畜産部会（以下農振協）にて、繁殖成績不良や子牛の死亡事故の増加、子牛の発育不良を理由に重点農家を

選定した（表 - 1）。

表一1 重点農家一覧

重点農家	母牛頭数	選定理由
農場A	68	繁殖成績不良 子牛の死亡事故の増加
農場B	43	繁殖成績不良
農場C	36	繁殖成績不良 子牛の死亡事故の増加
農場D	30	繁殖成績不良 子牛の死亡事故の増加
農場E	33	繁殖成績不良
農場F	41	繁殖成績不良 子牛の発育不良
農場G	110	繁殖成績不良 子牛の発育不良
農場H	41	子牛の発育不良

2 指導体制

令和 4 年度は 8 戸を重点農家と位置付け、2 か月に 1 回、JA、診療獣医師、普及課、家保で定期巡回した。JA は経営指導、診療獣医師は不受胎牛の治療、普及課は飼料給与指導及び子牛育成、家保は繁殖管理及び衛生指導を実施した。

3 重点農家の課題

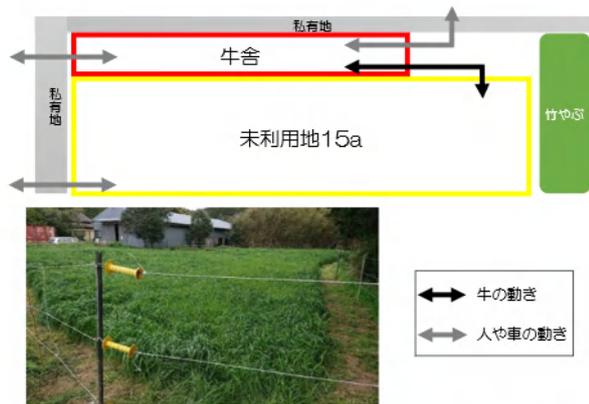
農振協の協議や農場への立入りで判明した重点農家の課題は労働力不足、観察不足、飼養管理不備、不適切な飼料給与、記帳不備等が考えられた。

4 具体的指導内容

重点農家ごとの課題に対応するため、以下の取り組みを実施した。

（1）労働力不足対策

1 人あたりの管理頭数や農場作業時間に課題のある農場 B、C、E には運動場整備（図 - 2）、キャトルセンターの利用について指導した。



図一2 労働力不足対策(運動場整備)の一例

(2) 発情発見向上対策

発情の見逃しが多い農場 A、B、C には発情発見用具の利用、発情観察時間の確認、黒板や管理ソフトを用いた繁殖台帳の整備、牛の観察を実施しやすくするため、ステージ毎に牛の区分を行うよう指導した(図-3)。



図一3 発情発見向上対策(ステージ毎の牛の区分)の一例

(3) 子牛の疾病・事故対策

全重点農家に飼養衛生管理指導、防寒対策指導としてコンパネの設置、子牛の下痢対策のために母牛への大腸菌ワクチンの接種を指導した。また子牛事故多発農場においては、子牛と繁殖牛が同居する牛房に、子牛のみが移動できるスペースを確保するよう指導した。

(4) 母牛の栄養度改善対策

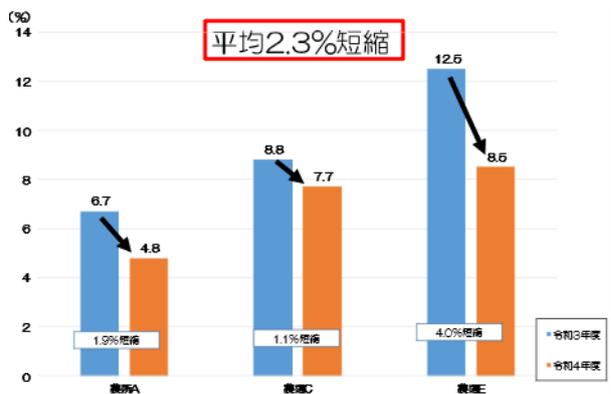
子牛の発育不良が目立つ農場 F、H には代謝プロファイルテストを実施した。農場 F は長期的なタンパク不足と個体管理不足、農場 H は濃厚飼料多給から生じるエネルギー不足と判断し、各農家に給与飼料の変更等について指導した。

(5) 成績や経営状況の共有

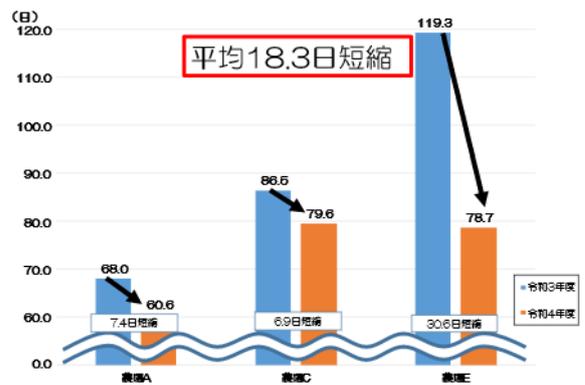
偶数月開催の農振協や重点農家への巡回指導の際には、繁殖成績や出荷状況を数値化し関係機関や重点農家と情報を共有するとともに、重点農家同士の繁殖成績や出荷状況を共有・比較、改善案を検討した。

5 結果

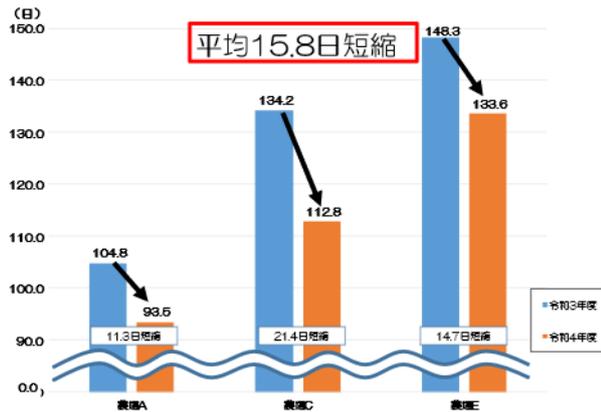
農場 A、C、E は長期不受胎牛の割合が平均 2.3% 減少(図-4)、初回授精日数が平均 18.3 日(図-5)、受胎日数が平均 15.8 日(図-6)短縮した。また、農場 F、H は死廃事故件数がそれぞれ 8 件(16 件 8 件)、5 件(8 件 3 件)減少した(図-7)。



図一4 長期不受胎牛割合

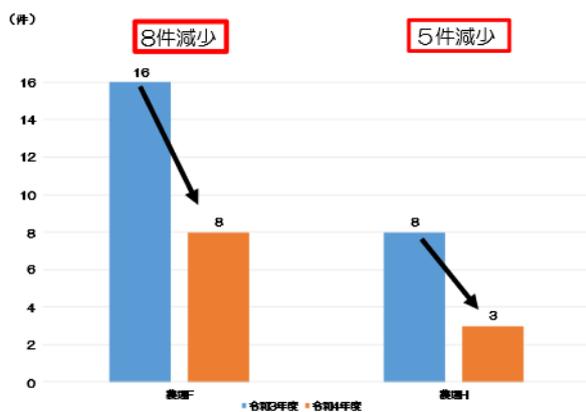


図一5 平均初回授精日数



図一六 平均受胎日数

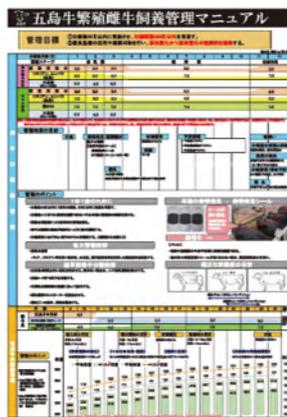
を提示・比較し農家指導に活用することで、複数の重点農家において繁殖成績が向上し、子牛の事故率が低減した。今後は改善が認められなかった重点農家への指導強化とともに、重点農家の成績改善事例は管内農家へ情報提供し、地域全体の生産性向上に取り組んでいきたい。



図一七 死産事故件数

6 地域全体への波及

重点農家の成績を用いて、分娩間隔 380 日達成を目標とした生産性向上対策について、肉用牛振興大会で管内農家へ周知した。また、令和4年度は農振協で繁殖雌牛飼養管理こよみを改定し、管内農家へ配布した(図 - 8)。



図一八 繁殖雌牛飼養管理こよみ

7 まとめ

重点農家ごとに課題を洗い出し、課題に併せた具体的な指導を実施、加えて重点農家の成績